

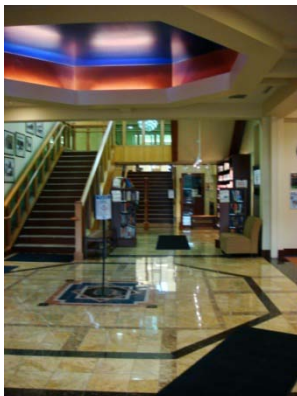
1. 研究概要

アメリカの小規模図書館の活動と地域コミュニティとの関わりについて研究しており、事例調査のため、図書館情報学海外研修助成をいただき、平成22年9月21日から30日に、アメリカミシガン州の公共図書館4館への訪問調査を行った。

訪問先は、チェルシー地区図書館（Chelsea District Library）、デクスター地区図書館（Dexter District Library）、アナーバー地区図書館（Ann Arbor District Library）、プリマス地区図書館（Plymouth District Library）の、計4館の公共図書館である。インタビューは、それぞれ館長に行った。

2. 研究報告

研究の主対象であるチェルシー地区図書館では、まず図書館案内から、設備の充実と共に、多様な利用の仕方が意識されていることが分かった。同館で行われるプログラムについては、季刊パンフレットを1年半分頂き、読書支援にとどまらず趣味や娯楽、遊びといった要素が盛り込まれた多様なプログラムの展開を見ることが出来る。さらにインタビューから、地域コミュニティのニーズに関する調査とそれを反映した幅広く多様なプログラムの提供によって、地域コミュニティに対する図書館の利用促進と図書館への理解を促している事がわかった。さらに、地域コミュニティと図書館の関係が深まることで、図書館の財政基盤や地域コミュニティの中での立場が確立されるという考えも示された。この目的のために、図書館友の会の活動やボランティア活動を積極的に受け入れており、いくつかのプログラムは図書館友の会が受け持っている。また、プログラムの計画においては、段階的に地域コミュニティからの意見を取り入れ、計画の発展や修正を行っているとのことであった。



（左から：チェルシー地区図書館エントランス、マックーンホール内観、児童多目的ルームの1つ）

続いて、プリマス地区図書館では、利用者の多くが高齢者層であることを考慮したサービスや設備が備えられている一方で、児童サービスにも力を入れていることが示された。



(左から：プリマス地区図書館入口, 無人ブックセル書架, 拡大鏡等の貸出用展示)

アナーバー地区図書館は、大規模図書館であり、ミシガン大学を含む学際都市という背景の中で、学術的な資料に加え、絵画を資料として利用できるように整備されていたことが印象的であった。インタビューからは、プログラムの計画等はライブラリアンが専念し、時には、地域コミュニティからの明確な要請を受けてプログラムとして採用していることを知った。また、図書館友の会の役割はブックセルなどの活動を行って図書館への財政的支援を行うことが第一とされた。

デクスター地区図書館は、展示やパンフレットの設置など図書館から利用者へのアピールに工夫しており、また、市民の人々が作品を展示できるスペースも確保されていた。パンフレットからは、年間を通したプログラムの一覧を見ることが出来た。インタビューからは、ライブラリアンスタッフがコミュニティと日常の中で対話を行い、そこから得られる要望やアイデアをもとに、地域コミュニティに応じたものを策定していることが分かった。また、プログラムは、エデュケーションだけでなくエンターテイメントにも力を入れていることが分かり、図書館サービスの幅を広げて地域コミュニティとの関わりを増すという効果が重視されていることが分かった。



アナーバー地区図書館の絵画資料展示



デクスター地区図書館の展示

すべての図書館で共通している点として、まず、図書館が読書や資料の提供の場にとどまらず、人々が楽しみのために利用する場と捉えられていることがある。それは、例えば、マンガやゲームなども図書館資料として構成され積極的に収集されていることや、ゲーム機が図書館に備えられていたり、パペットやロゴなどのおもちゃで自由に遊ぶことが出来るスペースが設けられていたりすることなどに表れている。

また、異なる点として、図書館友の会の役割の重心があった。金銭的支援を主要な目的としながらも、図書館によっては、友の会の図書館サービスへの関与に積極的で、地域コミュニティとの関わりを促進する媒体としての役割が重視されていた。